

第五話 国際関連用語は難しい

ずっと昔、N I E S（にーず）と呼ばれる言葉が経済面に出始めた頃、この意味をよく聞かれた。新興工業経済地域という意味で、Newly Industrializing Economies の略であるのは皆様もよくご存知かと思います。1960年代ころから急速な工業化によって経済発展を遂げつつある国や地域を言う言葉でした。シンガポール、香港、台湾、韓国、メキシコ、ブラジルなどを指していました。最初はN I C S（ニックス）（新興工業国 C は Country）とよばれていましたが、このうちメキシコ、ブラジルなど中南米の国は、豊富な天然資源と国内市場をバックに、輸入代替工業化を推進したものの、輸出はかなりの部分を一次産品に依存し、1980年代に入って経済成長が鈍化しました。これに対して韓国や台湾などのアジアN I E Sは、天然資源が乏しく国内市場が狭いというハンディを克服し、質が高く豊富な労働力を背景に輸出指向的工業化を推し進め、1980年代にかけて高い経済成長を達成したのです。その頃の言葉でしたね。

『山縣さん、V I S T Aって何処ですか？』

『えっ、会社で使っている僕のパソコンはX Pですよ！拙宅には Windows Vista Ultimate の 64bit 版をインストールした QUAD-CORE メモリー 3 TB の最速マシーンがありますが…』とお答えしたら、『いえいえ BRICs に続く、言葉らしいのですが…』とのこと。BRICs なら新興経済発展国の Brazil、Russia、India、China の四カ国のことであり、その頭文字を取ったのが BRICs である。

ウインドウズの VISTA と同名?! それなら、V=Vietnam、I=Indonesia、までは解ったが、S=South Africa、T=Turkey、A=Argentina とは知らなかった。本当に VISTA なんて呼ぶのだろうか、最新の物流用語辞典を調べてみたら、BRICs に続いて経済発展が期待される国の頭文字を取った…と書かれていた。VISTA…これで又一つ利口になったが、こういう新語を追いかけるのは大変である。